

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

704

重度身体障害者住宅改造成業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	9	将来に向かって希望の持てる福祉社会の形成
施策	3	障害のある人の自立と社会参加の推進
取組方針	4	障害のある人が安心して安全に暮らすことのできるまちづくり

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	民生費		
	項	社会福祉費		
	目	身体障害者福祉費		
	大事業	身体障害者福祉事業		
	中事業	重度身体障害者住宅改造成業		

事業種別	継続		関連個別計画	和歌山市障害者計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	障害者支援課	西岡 貞晶 435-1060
事業実施の根拠法令	重度身体障害者住宅改造成業		関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	障害者福祉の増進を図る。		在宅重度障害者(65歳未満)がいる前年度分の市民税非課税世帯に属する者に対し、住宅を改造するのに必要な経費を助成する。			
事業内容		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
		在宅の重度障害者に対し住宅を改造するのに必要な経費を助成する。3件(総数) 内訳 生活保護世帯 2件 非課税世帯 1件	在宅の重度障害者に対し住宅を改造するのに必要な経費を助成する。2件(総数) 内訳 生活保護世帯 0件 非課税世帯 2件	在宅の重度障害者に対し、住宅を改造するために必要な経費を助成する。2件(総数) 内訳 生活保護世帯 0件 非課税世帯 2件	在宅の重度障害者に対し、住宅を改造するために必要な経費を助成する。	在宅の重度障害者に対し、住宅を改造するために必要な経費を助成する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	1,266	1,114	1,266	143	1,266	532	1,266	0	1,266	0
伸び率(%)	0%	△4.5%	0%	△87.2%	0%	272%	0%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	2,314	2,473	2,478	2,398	2,336	2,497	2,497	0	2,497
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	2,314	2,473	2,478	2,398	2,336	2,497	2,497	0	2,497
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	1,266	1,114	1,266	143	1,266	532	1,266	0	1,266	0
所要人数(人)	正規職員	0.29	0.31	0.31	0.30	0.29	0.31	0.31	0.00	0.31
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	扶助費									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
申請数		件	目標値	3	3	3	2	2
			実績値	3	2	2		
			達成度(%)	100%	66.6%	66.6%	%	%
助成者数		人	目標値	5	5	5	2	2
			実績値	3	2	2		
			達成度(%)	60%	40%	40%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	重度の在宅の障害者で低所得の方の制度であるため現状のまま維持し、継続して行いたい。
見直し・改善内容	現状維持